

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第56号 発行日2008年5月30日

### Contents

JN協会の第7回定時総会開く	1
総会後行われたフォーラムの内容	2
丸山・新副理事長寄稿。フォーラム続き	3
霞が関情報—中部空港社長に聞く	4
観光人国記(長崎市長、花月女将)	5
国際観光セミナー。白澤氏講演	6
世界遺産。JN協会団体会員人事	7
城と城下町(福岡)。NEWSPOT	8
私の提言(氏家氏)。COLUMN	9
お得な情報(ラシェリール、多古館)	10
エコツーリズムと中西悟堂。江戸城	11
竜巻注意情報。会員名簿	12



「旧居留地、南山手からの眺望」。グラバー園で知られる南山手からは、長崎港と山々、教会、国際観光船など一望できる。手前の建物は、世界遺産暫定リストに登録された国宝・大浦天主堂。長崎港は来年、安政の開港から150周年を迎える。

### 巻頭言

## 福岡で7月に「大九州圏の経済と観光活性化」フォーラム JN協会総会で、20年度事業計画と役員人事決める。

新副理事長に丸山・前国交審議官、北陸支部長に魚住氏

JAPAN NOW観光情報協会(松尾理事長)は、5月27日午後2時から日本プレスセンターの10階ホールで定時会員総会を開き、任期満了に伴う理事、監事、支部長、参与など役員の変更を行った結果、松尾理事長、須田副理事長らを再任した。

新しく副理事長に丸山・運輸政策研究機構の副会長、北陸支部長に魚住・北陸鉄道社長が選ばれた。役員任期は6月1日から2年間。

平成19年度事業報告、決算や20年度事業計画、予算も原案通り承認された。

20年度の主な事業は7月14日福岡市で、「大九州圏の経済と観光活性化」(観光立国フォーラムin福岡)を開き、3人の講師が九州新幹線の全線開業、九州圏の観光振興策などを講演する。9月には金沢市で郷土発展振興会との共催でイベント、10月には神戸大学で、11月には札幌市で第4回「21世紀は大北海道圏の時代」を開き、月1回東京で開いている「観光立国セミナー」も継続し、情報紙「JAPAN NOW」やJN協会ホームページによる情

報発信を強化していく。

### フォーラムで支部長らが地方観光を語る



総会のあとフォーラム「魅力ある都市圏と観光・環境交流」(観光サミットin東京)に移り、西阪・国土交通省大臣官房審

議官、JN協会の須田・中部支部長、梅原・四国支部長、魚住・北陸支部長、分家・射水市長らのパネルが住みよい都市圏づくりや観光振興、環境保全策について現状、将来を説明した。約150人が参加。このあと懇親会が開かれた。(2、3面に内容)

須田中部支部長から「産業観光100選」が寄贈され、全員に無料配布。また、団体会員の株大塚ペパレジが、恒例になっている飲料の提供があった。

ご両者に、感謝申し上げます。

## 総会記念「魅力ある都市圏と観光・環境交流」(観光立国サミットin東京)

### 観光庁設置を機に更なる観光立国推進へ

基調講演 西阪昇・国交省審議官(観光担当)



今年10月、国土交通省に観光庁が設置される。新しい器に、本格的に魂を入れ「観光立国」への第一歩とする決意だ。

2003年、当時の小泉総理が年頭の施政方針演説で「外国からの訪日客を、2010年には倍増の1000万人に」と打ち上げて、その後も観光立国推進基本法成立を経て観光庁創設まで進んだ。入国者は、2007年で835万人となっていて、前倒しで1000万人が実現する見通しとなっている。

基本法に基づき策定された「観光立国推進基本計画」には『1、2、3、4、5』という語呂合わせ的な数字がある。1は訪日外国人の1千万、2は日本人の海外旅行者2千万人(07年1730万人)、3は国内観光消費額30兆円(同24.4兆円)、4は国内旅行者の宿泊数4日(同2.77日)、5は国際会議の開催件数5割増。いずれも2010年目標である。

1は、実現する見込みだが、今はフランスの7千数百万人にはるかに及ばず世界31位。2000万人になってもベスト10に入らない。2以降の実現は、かなり厳しい状況にある。

私は、日本人が国内を旅行し日本の良さを自覚するところから、観光立国の道が開けると思う。日本を訪れる外国人旅行者は、日本の公共交通機関の正確さ、安全さを高く評価し、清潔な街並み、人々の親切さなどに感心してくれている。

「住んでよし、訪れてよし」の日本は、日本人の観光教育の充実から実現できると思う。観光庁発足を機に文部科学省と一緒に、まい進したい。(ちなみに、西阪審議官は文科省出身)

### 東海・北陸道の7月全通に期待

魚住・北陸支部長(北陸鉄道社長)



古都・金沢は一級の観光地だが、昨年3月の能登大地震で観光客が大きく減った。暮れあたりから、やっと回復に向いたが、私の本業である鉄道会社の決算はレストランが良くなく、厳しい状況にある。

今後の見通しだが、今年7月に「東海・北陸自動車道」が開通し、太平洋と日本海が結ばれる。これは、大変大きなプラス効果をもたらすだろう。さらに、6年先には北陸新幹線が金沢まで伸びてくる。空港も、小松・能登・富山とあって、金沢、能登を周遊するルートが便利になっている。交通の基盤整備が、観光推進に大きな意味を持つと考えている。

日本人ばかりでなく、外国人観光客とくにアジアの人たちの来訪を、大いに期待している。

### 3つの特色を生かす中部観光

須田・JN協会副理事長(JR東海相談役)

中部地方としても、いろんな数え方がある。ここでは、9県知事会議のメンバー(愛知、石川、福井、岐阜、新潟、滋賀、静岡、長野、三重)を対象とする。

この地区には、3つの特徴がある。首都圏をにらむ県、関西を対象とする地域など、私は「バラバラ観光」と言っている。2つ目は、太平洋側から日本海まで変化が楽しめる、観光資源の豊富さである。私の試算では、日本の観光資源の25%が、この地にある。山に至っては標高の順で100を選ぶと100%といった具合だ。3点目は、この地区が日本の真ん中にあり、すべての交通手段がここ抜きではあり得ないということだ。

こうした特色を備えながら、現状はそれを生かし切れていないのではないかと。普通の観光ばかりでなく、外国人が好んでいるような「街道観光、産業観光」等を開拓すれば、ビジネスで訪れる外国人も引き付けられるだろう。



フォーラム(左から西阪、須田、梅原、魚住、分家の各氏)

### 「お遍路」「癒し」をキーワードに

梅原・四国支部長(JR四国会長)

古事記によると、四国は淡路島に次いで日本で二番目に生まれた土地、とされている。ところが、4県の仲はあまり良くないのが実態。そこで、連携して観光客の四国誘致を進めようという機運が盛り上がり、私が四国観光立国推進協議会の会長を仰せつかり、まとめ役を務めている。

四国は、山あり溪谷あり、瀬戸内海、太平洋ありと、観光資源に恵まれている。

なかでも、弘法大師に由来する四国88カ所を巡る「お遍路」道は、世界遺産登録を目指す四国の目玉的存在である。世界遺産の「スペイン巡礼の道」のようなイメージで、準備を進めている。

キーワードは「癒し」。テロ、戦争と殺伐な世の中だが、「お遍路」道を辿って、心の安らぎを得ていただきたいと考えている。

同時に、有名なさぬきうどんにちなんで開いている「麵フェスタ」や、土佐の「であい博」に続いて「瀬戸内国際芸術祭」(2010年)開催などを通じて、「点から面への」広域観光を開拓していく。3つの本四架橋を上手に活用することで、実現したい。



## 外から見た ビジット・ジャパン・キャンペーン

JN協会副理事長 丸山 博

現在私は、国土交通省顧問と運輸政策研究機構国際問題研究所長の二足のわらじを履かせていただいている。国際問題研究所長としてはワシントンにある事務所に年間100日程度滞在することとなっている。国土交通省顧問としては、ビジット・ジャパン・キャンペーンなどで海外出張する機会も多い。そこで、インバウンド観光振興策に関連して海外滞在中に感じることをお話してみたい。



まず第一は、寿司をはじめとする日本食が北米・欧州で完全に根付いていることである。ワシントン・ロンドンのスーパーでも、日本人が握ったものとは限らないが寿司が並んでいる。

私は、今を去ること20年以上前に、ジュネーブとパリにそれぞれ、3年ずつ駐在する機会があったが当時と比較すると隔世の感がある。

このような状況の中で、今、日本の何が外国人の足を日本に向けさせるのか？

昨年10月に観光情報協会が刊行した、「我が国の観光立国のあり方」の、「インバウンドツーリズムの現状と課題」の中で外国人宿泊者アンケートが実施されているが、旅行先に日本を選んだ理由は、日本の歴史・文化から、アニメ・マンガ・ゲームまで

多岐にわたっている。ワシントンのケネディセンターではこの2月の日本週間の中で多くの催しが行われたが演劇など入場料が必要なものを除くと、一番受けていたのは、和服を着、身振りを交えて、英語をしゃべる人型のロボットとトランペットでジャズを一曲演奏しきったロボットだった。フランスでは、日本のマンガ・アニメはすっかり定着している。原宿でよく見る、いわゆる「カワイイ」服を着た若い女の子を見かけたが、コンテストが行われる程の人気だという。ところが、同じ服が英国ではまったく受けないとのこと。

同じヨーロッパでも嗜好は国ごとに違うようだ。日本と文化的な繋がり深い中国・韓国・台湾では、寺社、仏閣などの伝統的日本以外のものが興味を引くようだ。中国では、ロボットなどのハイテク・マンガ・アニメ・メイド喫茶などのポップカルチャーが人気があるようだ。韓国だとゴルフと温泉、台湾だと自国で見ることの難しい北海道などの雪景色といったところか。

こうして見てくると、多様な外国人の好みを満足させる魅力が日本にはあふれているということではあるが、一方では、国、地域ごとに異なる日本に対する興味にあわせた木目細かい施策が求められるということであろう。

丸山氏は次官と同格の国交審議官を退任後、国土交通省顧問、運輸政策研究機構国際問題研究所長に就任。JN協会の5月定時総会でJN協会副理事長に選ばれた。

(前ページからの続き)

### 豊かな観光資源を自覚、活用へ

分家・JN協会理事(富山県射水市長)



射水市には、観光都市・金沢、高山、能登とも等距離、立山はすぐ近くという素晴らしい立地条件である。

日本海側では新潟港と並ぶ国際港(特定港)があり、北東アジアやロシアとの架け橋にもなれるのではないかと。

食べ物も、先日、静岡の「桜エビ」と姉妹提携をした「シロエビ」はじめ、富山湾の魚をはじめ食通が訪れるには最高の食材に恵まれている。

立山の「雪の回廊」に見られるように、深くつもった雪が流れ下り、あるいは伏流水となる「美味しい水」や海洋深層水といった資源。曳き山が20基もあるような、祭りの宝庫。3個で8000円もするが、日本一うまいナシ・幸水など、果物も豊富である。

ただ、大人しい県民性からか、PRが下手だしもてなしの心を外に出すのが苦手なよう。大声の私は、先頭に立ち富山・射水を売り込みたい。

(フォーラム紙上参加)

### 奥州・平泉の文化遺産に期待

丸森・東北支部長(仙台商工会議所会頭)



他の地域よりも人口減少が進行している東北にとって、交流人口の増大をもたらす観光の振興は地域経済の発展に欠かすことのできない重要な課題です。

東北は、四季の彩りが明瞭で、多様でかつ質の高い観光資源があります。それをみんなが自覚し、訪れる人たちに自信を持って紹介する。そういった積極性が大事です。

本年10月～12月までの3ヶ月間、宮城県境を越えた46市町村とJR・観光関係者・経済界とが一体となって作り上げる大型観光キャンペーン「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が開催されます。

このデスティネーションキャンペーン開催が契機となり、人々の意識は大きく変わり始めました。

また、奥州藤原氏が築いた浄土思想を基調とする平泉の文化遺産を世界遺産に登録してもらおう運動も粘り強く展開してまいります。私は、県境を越えて東北が光り輝くためのお手伝いをしていこうと思います。

## 東京 電が関発の最新情報

観光立国を支える人たち

### 中部の強み生かし貨物便増強も

中部国際空港社長

稲葉良瓏（いなば・よしみ）氏に聞く

聞き手 阿部和義（JN協会理事）



通称セントレアで親しまれている中部国際空港は、開港から3年経ちましたが順調に來ましたね。

開業1年目から黒字になるという空港会社としては順風満帆のスタートでした。05年3月に始まった愛知万博のおかげと言うころもありました。ここに来て厳しい状況になってきています。今まで以上に営業努力をしなければなりません。

#### 具体的にどのようなことをしていきますか？

航空会社に中部国際空港を使ってくださいと言っても、お客がいるかどうかです。航空会社のお客さんを増やすようにするのが仕事です。ビジネスのお客さんは抑えやすいです。私の出身のトヨタ自動車に頼んだり、愛知県や中部経済連合会などに協力を求めています。一般の観光客を増やす努力をしなければなりません。愛知県に在る5つのテレビ局と協力して海外への旅行番組を作っています。パリへの観光番組に協力して、フランスに行きたいようにするのは。テレビ局は協力してもらっています。

#### 自動車を販売するのとどのように違いますか？

私はトヨタでは販売を中心にしてきました。米国では販売会社の社長もしましたし、最後は中国の販売をしました。中国はこれからの市場と言うことでトヨタも力を入れています。2年しかやりませんが、ヨーロッパのフォルクスワーゲンや米国のGMとは競争で負けることは無いと思います。これからが楽しみです。自動車の販売との違いは1台あたりの価格の違いでしょう。自動車では新車を発売する時は10億円から20億円の宣伝費をかけられます。ところが航空会社では1千万円を使うのも相当な覚悟が必要です。

ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）に協力していると思いますが、中国からの客をどう増やすかが問題でしょうね。

中部国際空港から中国には天津への直行便があります。トヨタが天津に3工場持っているのもそれなりのお客はあります。これから天津には飛行場も滑走路が1本から3本になると言われており、中国政府も天津にはカネを投じ発展させていく方針のようです。北京にも近いという事で期待されています。

今は観光客は少ないので苦戦していますが、将来が楽しみです。

- 名古屋はトヨタをはじめ産業が盛んです。貨物便は良いのでしょうか。

そこなんです。観光とは関係は無いのですが、貨物便をもっと増やさなくてはなりません。世界的に景気が悪くなって国際貨物が減ってます。現在、年間20万トン運んでいますが、3倍の60万トンの容量があるのです。これを60万トンにすれば会社の業績も良くなり、観光誘致へ力を使えます。中部地方の会社だけではなく東京や大阪の会社にも協力してもらおうようにしています。

稲葉氏のプロフィール

大阪府出身。1968年3月京都大学経済学部卒。トヨタ自動車販売入社。76年米国ノースウェスタン大学経営大学院卒。99年米国トヨタ自動車販売社長。2003年トヨタ自動車専務、05年副社長・中国本部長。07年6月に現職。62歳。

### 八戸・新青森間は22年度末に開業へ

#### 北陸新幹線の長野・金沢は26年度末

新幹線の建設を担当している鉄道運輸機構などによると、東北新幹線の八戸・新青森間は工事も順調に進み、平成22年度末には開業する見通しとなった。JR東日本は八戸・新青森間の開業を機会に座席のゆったりしたスーパー・グリーン車を導入するが、席数や料金は今後検討する。

北陸新幹線の長野・金沢間の開業は平成26年度末となる見通し。

また、九州新幹線の博多・新八代間も工事は予定通り進み22年度末には開業し、すでに開業している鹿児島中央・新八代間を含め全線が開業する予定。山陽新幹線は大阪から鹿児島中央まで直通運転となり、関西と九州間の交流が活発になる。

### 非接触給電ハイブリッドバスが完成

#### 国土交通省が羽田空港で運行始める

国土交通省は、平成14年度から行ってきた「次世代低公害車の実用化プロジェクト」で非接触給電ハイブリッドバスの開発に成功し、このほど羽田空港のターミナル間の無料連絡バスとして運行を始めた。

このバスは路面などに埋め込んだ給電装置から電磁誘導により非接触（充電用のコードなどを用いない）で車両側のバッテリーを急速に大量充電するものである。外部から充電することで電気駆動の割合を増やし、排出ガス低減性能や燃費性能が大幅に向上する。

開発メーカーは日野自動車で、運行は日本空港ビルディングなどの協力で行っている。



## 観・光・人・国・記

## 『長崎さるく』で交流拡大目指す

西九州新幹線、世界遺産に期待—長崎市長



田上 富久(たうえ・とみひさ)氏

長崎県五島市出身、1980年、九州大学法学部卒。同年10月、長崎市役所に入り、観光部振興課主幹を経て、04年統計課長。07年の市長選に出馬し当選。1期目。日本非核宣言自治体協議会会長、中核市市長会会長など。

「さるく」とは、長崎弁で「ブラブラ歩く」ということらしいが、この言葉を全国的に知らしめたのが、2006年に行われた『長崎さるく博』だ。半年で延1000万人を超える人が参加した。このイベントの立役者の一人が、当時、観光部主幹の田上さん。

その田上氏が2007年4月、伊藤市長が凶弾に倒れた後の市長選に急きょ立候補し、対立候補だった伊藤市長の女婿を僅差で破って、全国ニュースで大きく報じられた。長崎市民が世襲的な候補に疑問をもったという要素もあるが、『さるく博』でガイドをつとめ気さくに市民と交流を深めていた田上氏の人柄がモノを言ったのだろう。

田上市長は、『さるく博』が終わったあとも、約40の『長崎さるく』コースを設定し、市民に参加を呼びかけ、今も毎日のようにどこかで実施されている。「歩き回することで、住んでいる街の歴史、文化や食、自然を識る。それが、外から来た知人や観光客をガイドできることにもつながる」と説明する。

「かつての修学旅行や職域の団体旅行から、いまや旅の主流は個人客になりつつあります。飲食店や土産物屋などの従業員にも、『長崎さるく』に参加してもらって、お客様とより深い会話ができるようになればと念じています」という。今も公式ガイドの資格を持つ田上さんらしい着想である。

田上市長に“観光論”を聞くと「私は、長崎は観光の街というより交流のまち、と考えています。もちろん観光が旅の主な目的という方も多いでしょう。しかし、平和交流や学会などで来られる方と市民の触れ合いを通して、長崎をよく知って戴くことも大切だと思っています」。

長崎市はいま『観光戦略策定会議』を立ち上げ、近々報告書が提出される運びになっている。そこには、市長の主張である“交流”を軸に、市民参加型の国際観光都市造りなどが盛り込まれる予定だ。

終わりに、中長期的なビジョンを聞いてみた。

「長崎の教会群を世界遺産にという動きがある。ぜひ実現させ、“巡礼の旅”でキリスト教徒が多い韓国の人たちはじめ、世界各国から来て頂きたい」

「長崎新幹線（西九州新幹線）が実現すれば、長崎市は島原はじめ観光資源の宝庫である西九州の観光拠点になる。関係首長が集まって、新幹線開通後の広域観光の姿を話し合っています」とも言う。

インタビューの中では、第二の被爆都市・長崎については言及されなかったが、お気持ちを忖度すると「市内を歩けば、自ずから被爆の痕跡を見ることになるだろう。美しい街並みと対比しながら、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えてもらえれば」ということではなからうか。（加納）

## “史跡”の冠がつく料亭『花月』

## 龍馬らの痕跡を守り続ける加藤女将

最近、全国放送の『お宝拝見』番組で、坂本龍馬の手紙とか江戸時代の時計などに高い値段がついたのを見た人も多いことだろう。その舞台が、長崎の丸山にある史跡料亭『花月』であり、次々とお宝を持ち出してきたのが女将の加藤公子さん（写真）である。



“史跡”と冠がつく料亭は、全国的にも珍しい。それもそのはず、『花月』は366年の歴史を誇り、頼山陽、龍馬はじめ多くの歴史上の人物の痕跡が残っている。日本初といわれる洋間、長崎3名園の一つとされる美庭、龍馬がつけたという柱の刀キズ、さらには『花月』内にある集古館には、なかにし礼さんの小説「長崎ぶらぶら節」で知られる芸妓・愛八を偲ぶ遺品や頼山陽らの書など、見どころ満載。

ここの女将になって40年という加藤さんは、雲仙温泉・湯本旅館の出で、佐世保市の山水楼で女将をしていたとき、スカウトされたという。「歴史がある花月ですが、順風満帆とはいっていません。長崎の有力者の出資で株式会社化したとき、立て直しにと連れてこられるのですが、若さに任せて働き続けました。バブル時代には、企業接待ブームに乗れなかったのですが、いまは良かったと考えています」と、花月の専務でもある加藤女将。

個人客中心に、自慢のしっぽく料理、美庭の散策や集古館見学など、いまや予約電話が鳴りっぱなしという状態だそう。ちなみに、“しっぽく”とはテーブルとテーブルクロスのことだそうで、料理は一人ひとりにお膳で出すのではなく、円卓に並べられた料理を銘々がとる方式、中華料理を思い浮かべるとよい。

『花月』は、いまや長崎市でも自慢の名所。市長インタビューで触れた「長崎さるく」コースの一つになっている。その講師が加藤女将なのだ。そのハイライトともいえるのが、桜満開の4月に行われる「春雨まつり」。自慢の庭に舞台を作り、長崎芸妓連が『花月』で生まれた端唄「春雨」はじめ「長崎ぶらぶら節」を踊るイベント。田上市長も「都市の品格、風格を形作る上での重要な行事」と言う。

明治12年の丸山大火、長崎原爆、眼鏡橋の一部が流された昭和57年の長崎大水害にも被害を受けなかった『花月』。数多くのお宝とともに、400年の歴史に向けて着実な歩みを続けていくことだろう。

『花月』850-0902 長崎市丸山町2-1

電話 095-822-0191 F A X 095-825-5221

## 産業観光の国際的広がりが重要と確認 「産業観光国際セミナー」、名古屋で開く

世界観光機関（UNWTO）と国土交通省の共催で、第一回「産業観光国際セミナー」が3月25日、名古屋で開かれ、約300人が参加した。

ちなみに世界観光機関とは、1970年採択のUNWTO憲章（加盟150国）にもとづく観光分野では世界最大の国際機関であり、国連の専門機関でもある。

国交省から出席した西阪昇審議官は「産業観光は新しい観光、訪問客のニーズに応えた受入体制を整備し、ものづくりを通じて日本文化をひろく海外の人々に知ってもらおう動機としたい」と挨拶した。

### 上海万博の洪局長らが基調講演

基調講演はUNWTOのペーターセン観光コンサルタントと上海万博事務協調局の洪浩局長が行った。

ペーターセン氏は世界各国の産業観光の取り組み状況を映像で説明、「訪れる人々の楽しみのため企業等によって提供される特別な観光」と産業観光を定義し、各国での今後の多くの発展可能性を示唆した。

洪浩氏は、上海万博は工場跡地利用で産業観光と関連が深いとし、「周辺の工業都市も観光価値が高く、それらを含めて産業観光面から万博を盛り上げたい、世界の人々が上海万博に来て産業観光を通じた文化交流を体験してほしい」と述べた。

### 須田 J N 協会中部支部長が 「中部の産業観光」を説明

このあと須田寛 JAPAN NOW 観光情報協会中部支部長が、赤崎まき子エイワークス社長とともに「中部の産業観光の現状」を、映像を用いて説明した。

さらにパネルディスカッションが行われ、奥野信宏中京大教授をコーディネーターとし、ペーターセン、洪、須田3氏のほか呉焜康常治屋日本旅行代表が加わった。「産業観光の意味と効果を地域の人々が、まず理解すること」「体験的プログラムの展開が重要」「保存と公開の調和が必要」等の問題提起がされた後、「産業観光発展について関係者の情報共有が今後の発展への出発点になる」と奥野氏が総括した。

会議を通じて産業観光の今後の発展と国際的な広がり的重要性が確認されたことが、その大きい収穫であったといえよう。（文責・須田）

## 「どうする、食の安全確保と食糧の供給不安」 J N 協会の白澤事務局長が金沢で講演

JAPAN NOW 観光情報協会の白澤事務局長は5月8日、金沢市の郷土発展振興会（加藤愛恵会長）



で観光とも関わりの多い食糧問題について「どうする、食の安全確保と食糧の供給不安」というテーマで1時間10分ほど講演した。約40人が参加した。講演内容は次の通り。

中国製の冷凍ギョーザに農薬が混入していた問題が日本各地で発生し、中毒被害も起きるなど大きな社会問題に発展したが、食品の安全を担当する厚生労働省や農水省の対応が遅れ混乱が拡大した。福田総理はバラバラな消費者行政を強化するため来年には「消費者庁」を新設し、食品行政の「生産者保護」から「消費者重視」に転換するという方針だが、果たして実現するか、課題も多い。

今年になってパン、麺類、牛乳、バターなどが値上げされ、家計負担が増加していることは周知の通り。その背景には世界的な穀物価格の高騰や品不足、資金力のある穀物メジャーの買い占めやアメリカの金融不安に伴う株式市場の株安、原油価格の高騰など複合的な要因が指摘される。小麦価格の上昇は世界最大の穀倉地帯を持つアメリカや豪州で異常気象による不作に見舞われたのが引き金となった。トウモロコシの高騰は車のエタノール燃料向けの需要が激増したため。

こうして穀物高騰の連鎖現象が世界を駆け巡って日本に波及したといえる。日本の食料自給率はカロリーベースで約39%だが、これを小麦、大豆、トウモロコシなど基幹穀物（食糧）でみると3品目とも僅か3%前後と低く先進国の中でもっとも自給率が低い。国内で自給できるのはコメと野菜だけで、水産物も輸入が多い。ドイツ、フランス、スイス、イギリスには小麦など重要な穀物の基幹備蓄と補完備蓄制度があり、自給率は70%から110%と高い。

欧州連合（EU）は伝統的な共通農業政策を母体に発展してきたが、日本も高橋是清がかつて指摘した「農は国の基」という原点に立ち返って、食糧の供給不安を改善すべきである。古くて新しい「三ちゃん農業」を脱却して自給率を高めるためには「大きな株式会社の農業への参入」による生産規模拡大が必要である。温暖化が食糧生産に及ぼす影響も懸念される。

### J N 協会19年度の決算（単位1000円）

収入の部		支出の部		コメント
個人会員会費	863	講演会事業費ほか	3,347	1. 前年度繰り越し 1,948
団体会員会費	5,019	JN紙発行費	947	2. 次期繰り越し 4,843
事業収入	2,772	賃借料(事務所)	1,573	3. なお、人件費項目が無いのは、ボランティア参加のため、ゼロ。
寄付金収入	3,800	交通費	1,914	4. 寄付金は、小田急電鉄800千円、河瀬義昭氏3,000千円。
その他	70	通信費、IT、会議費等	1,848	
収入合計	12,524	支出合計	9,629	



「世界遺産」物語・・・

**アユタヤ王朝の明暗**

JN協会員 近藤節夫

ユネスコが世界中の文化遺産や自然遺産を人類共通の世界遺産として登録し、保護を始めたのは1972年のことである。それまで多くの「世界遺産」は、それぞれの国の事情によって修理保存、修復作業により充分保護されたものもあれば、その一方で数多くの「世界遺産」が荒れるに任されていた。その意味では、ユネスコの世界遺産条約は、かけがえのない人類共有財産の保護に大いなる福音であった。

しかし、遺跡保存作業の過程で、総合的な調和やバランス、環境配慮ということになると、それがいかに難しいかということを実感として感じさせられることがある。

タイの首都バンコックの北へ120kmほど上ったところに、14世紀のアユタヤ王朝遺跡がある。初めてここを訪れたのは、世界遺産条約発効の6年前だった。赤レンガを積み重ねたアユタヤ王朝の遺跡は風雨に晒され、遺跡の中はこどもたちの遊び場となり、王朝時代の城壁の欠片はこどもたちの遊び道具となっていた。

アユタヤを暮盤の目のように敷き詰めた広い道路は、中央部をアスファルト舗装にして両端は芝や草が覆い、涼やかではだして歩くとひんやりとする爽やかな土地の感触があった。そんな環境の中を馬車



若かりしころ訪れたアユタヤ遺跡

や人力車で、またはだしのまま歩き回っては、民家を訪れ歓迎されもした。気が向けばメナムの川向こうの日本人町跡へも足を伸ばしたり、身体いっぱい吸い込む新鮮な空気は、心から気持ち温まったものである。部屋の天井にトカゲの張り付く粗末なモーターに泊まっては、街の中心のマーケットへ人力車で食事へ出かけた楽しい思い出が心に残り、その後、新婚旅行は躊躇うことなく再びアユタヤへ足を運ばせた。

それ以来何度か訪れたアユタヤだが、ここ30年近く訪れていない。その間アユタヤは世界遺産に登録され、管理体制は厳しくなり、フェンスが張られ、警備員が巡回してこどもたちの入り込む余地はなくなった。押し寄せる観光客のために道路は整備され、かつての草付きの道路も駐車場と化した。アユタヤのランドマーク、ワット・プラ・シー・サンペットの3つの塔には、夜になると煌々とライトが照らされ、街にはホテルも建設された。

農村地帯の生きる道として、街の活性化は賑わい

をもたらしてくれたが、それと引き換えに、タイ農村地帯の素朴で牧歌的な穏やかさが確実に失われようとしている。

**JN協会加盟社の主な人事**

経済界では、毎年6月の株主総会で、大幅な人事が行われる。以下は、JN協会に団体会員として参加している企業の今年の主な人事を紹介する。

**東電社長に清水氏、勝俣氏は会長に  
北電は社長に佐藤氏、会長は近藤氏**

JN協会の団体会員である東京電力は、6月26日の取締役会で勝俣恒久社長が会長に就き、社長には清水正孝副社長が就任する首脳人事を決めた。東電の社長は伝統的に東京大学出身者が務めてきたが、清水氏は初めての慶応大学出身ということと話題となっている。柏崎原発の運転中止や原油高騰による赤字経営の改善が期待される。また、北海道電力は3月27日の役員人事で近藤龍夫社長が会長となり、社長には佐藤佳孝常務が就任した。

**JR九州の田中会長は相談役に**

JR九州は6月24日の取締役会で田中浩二会長が退任して相談役となる。田中氏は九州観光推進機構会長を務める。石原進社長は続投する。

**西鉄社長に竹島氏、長尾氏は会長に**

西日本鉄道は、6月27日の株主総会後の取締役会で長尾亜夫社長が会長となり、社長には竹島和幸専務が就任する。長尾氏はJN協会九州支部長を継続する。

**石油資源開発社長には渡辺氏**

JN協会の講師団の一人である石油資源開発会社の渡辺修副社長が社長に就き、棚橋祐治社長は会長となる。6月25日の株主総会後の取締役会で正式決定される。

**JN協会が講師派遣事業開始へ**

JN協会は発足8年目を迎え、観光立国、環境保全、都市再生の3本柱に関する活動を強化する方針を打ち出した。

その目玉となるのが、JN協会に参加している人材を、各地へ講師として派遣する事業である。

現役の大学教授、かつて教壇に立った経験のある人、元新聞記者、観光問題に深くかかわった元高級官僚など多くの講師陣を抱えている。

学校、地域団体、職場サークルなど、ご希望に応じて講師派遣をします。詳細は下記のホームページ（info@japannow.org）をご覧ください。JN事務局（Tel 03 5304 9500）へ、お問い合わせを。

## 城下町と観光

## 黒田長政が築いた福岡城

## 町衆の博多とともに繁栄する

JN協会参与 長宗我部 友親



## 活みなぎる博多の天神

博多の街を歩くと、時としてスーと風が背中を通り抜けて行くような気がする。それは海からなのか、川からなのか分からないが、とにかくすがすがしい風である。

身体がぐんと軽くなったような気分させられて、「さあ、それではうまい魚に酒といこうか」ということになる。

黒田長政は天下分け目の関ヶ原の戦いで、徳川家康が率いた東軍の右翼を引き受けて、石田三成の軍を攻め、その主力の一角である島左近を打ち破っている。

その戦功で家康から福岡藩52万3千石をもらう。それまでは豊前中津藩18万石なのだから、大幅の加増である。

長政の居城となった舞鶴城とも呼ばれる福岡城は、福岡の中心地にある平城だ。東側是那珂川で、これは自然の堀の役目をしている。

西側は干潟を利用しての堀とした。

## NEW SPOT

## 氷川丸再見

in japan

横浜港・山下公園前の棧橋に係留された日本郵船の貨客船・氷川丸が歴史的な博物館に生まれ変わった。1930年、太平洋シアトル航海用に建造され、60年に航路引退後、現在地に半世紀近く船上ピアガーデンなどで親しまれた。5年前に横浜市有形指定文化財となり、約8カ月の改修を経てこの4月25日に一般公開となった。

氷川丸は第二次世界大戦をはさむ現役30年間に太平洋を254回横断し、乗船客は2万5千人余りに上る。戦時中は海軍の病院船などに転用され、終戦までに3回も魚雷の接触を受けながら、日本郵船の大型船でただ1隻だけ沈没を免れ、戦後は引き揚げ船にも利用された。一等客室にアールデコ調の豪華な内装を施し、

そして城下町は北側の海の方に広がっていった。那珂川の東には、港を持つ商都「博多」の街が栄えている。

福岡城は関ヶ原の戦いの翌年の1601年から7年の歳月をかけて築き上げた。47の櫓を持つこの城は九州一の広さを誇る。

現在は舞鶴公園となっており、平和台陸上競技場、福岡市美術館などがそろう。城には、塩見櫓、大手門などが今も残っている。

福岡は現在、その中心地である通称博多で通る。博多は町衆の街でもある。土地が豊かで、とにかく町衆の力が強かった。玄界という海の荒っぽさと、九州という気候のよさが、町衆に、エネルギーを培わせたのかもしれない。

また、福岡の中心街は大丸などの百貨店のある天神だが、那珂川と博多川の中の島に位置する「中州」も九州一の歓楽街として栄えている。



リニューアルオープンした「氷川丸」博物館

最新鋭の8気筒ディーゼルエンジン2基を装備した。今回の公開は、ほぼ竣工当時のまま残されたこの機関室まで見学できるのが魅力だ。

公開は10～17時。ビデオ上映30分を含む約1時間で一等食堂・客室、三等客室、操舵室、船長室、機関室などを巡る。当面、船内の飲食営業は無く、往時300人以上の食事を賄った厨房の整備公開や食堂復活などが期待される。

入船料200円、シニア(70歳以上)と中学・高校生は100円。徒歩15分ほどの日本郵船歴史博物館は、日本海運の華やかな歴史をたどる展示が興味深く、氷川丸と歴史博物館のセット券など割引料金がある。月曜休み、祝日なら開館し翌日休み。

(写真・文 林 莊祐=会員)



「観光立国と私の提言」

スキー場再生に力を注ぐ  
日本駐車場開発の氏家氏に聞く

JN会員 加藤 和子

今回は、スキー場を買収し再生に乗り出した日本駐車場開発の氏家太郎副社長（写真）に話を聞いた。



スキー人気の凋落が言われて久しい。スキー人口は、スノーボード人口を加えてもピーク時の90年代初頭の半分程度に落ち込んでいるという。このため経営は苦しく、倒産したり、身売り先を探すスキー場が相次いでいる。

駐車場の運営やコンサルティングを行う日本駐車場開発が、スキー場の再開業に乗り出したのは約2年前。氏家副社長は、他のベンチャー企業に経営や上場についてのノウハウなどをアドバイスするうちに、こうしたノウハウは、ほかのさまざまな事業にも応用可能と考え、これを学生時代に熱中していたスキーの世界で活かしたいと思うようになったのだという。

子会社として日本スキー場開発を設立、買い手を探しているスキー場を調査し、再生の可能性があると思込んだのが大系線沿線の「サンアルピナ鹿島槍スキー場」だ。有名なスキー場が目白押しのエリアで、じり貧状態が続いていたスキー場だった。

氏家社長は、「事業の運営に自信があるといっても、スキー場の経営は初めて。まず鹿島槍を建て直すことによってノウハウを獲得、それを他のスキー

場にも生かしていきたい」と語り、鹿島槍はスキー場再生事業のモデルケースと考えていることを明らかにした。

本格的な運営を始めて今年が2年目。1年目には旅行代理店に頼りっきりで、大幅な割引を強いられた。今年は旅行代理店に頼らずに集客できる時期は自力で集客することを決め、客の入り期待できる時期かどうかでシーズンを細かく区分し、それによって価格を決めた。

また大小さまざまなイベントも開催した。日本駐車場開発がジャスダックと東証1部にダブル上場していることから、中小企業が多く、商社や銀行のように業界内のスキー大会などに参加できないジャスダック上場企業に声を掛けて、大会を開催した。

またリピーターを増やす上で重要な「食」の分野も改革。レストランの企画会社に依頼し、メニューや運営方法を見直した。昨春入社した日本駐車場開発の新入社員たちは10月まで駐車場ビジネスの研修をした後、12月から3月までは、鹿島槍で「実習」を行った。長く働いている地元の人々の意識改革を進めるには、少数の本社派遣の幹部だけではむづかしい。このため研修を終えたばかりの若者たちを、改革のためのいわば「触媒」に使ったのだ。

こうした努力が実り、ことしのシーズンの利用者は15万人と前年比45%増加し、2年目にして、なんとか営業損益をプラスできた模様だ。

氏家氏はシーズン中、ずっと鹿島槍で過ごした。好きなことを仕事にしてしまった幸せがエネルギーになっているのを感じた。

C O L U M N

日本人の桜好き

今年も見事な満開の花を咲かせあつという間に散った桜は、時にはこの世の諸行無常を暗示的に伝えてくれる。今も昔も日本人の心に世の儚さを訴え、桜を想うとついセンチメンタルな気持ちにとられる。

昔から「花は桜木、人は武士」と詠われ、陸軍の歩兵行進歌「万葉の桜」や、海軍予科練「同期の桜」のように、日本人の大和魂を一瞬で散りゆく桜に譬えられることも多かった。

大東亜戦争中の激しい戦地でも、良きにつけ悪きにつけ軍隊と桜の絆は切れなかった。軍隊の中にも余裕があれば、戦地でもお花見を楽しもうとの気持ちは強かったようである。

しかし、現実には外地ではなかなか桜にお目にかかれない。それが意外にも南国ビルマの中部高原、メイミョウやカローだけは例外だった。1月になると日本以上に艶やかな桜が咲き誇った。インパール作戦で評判を落とした第十五軍司令官牟田口廉也中将の如きは、お花見が好きで灼熱の都市マンダレーを避け、車で三時間ばかり離れたこの冷涼な高原メイミョウに司令部を置き、どっぷりお花見気分浸った。それが牟田口の悪評に追い討ちをかけることにもなった。

それにしても1月のメイミョウの桜並木は見事なものである。外国でも近年はアメリカの首都ワシントンの桜が見事だと、わざわざ桜見物にワシントンへ出かける旅行者も現れた。ところが案外知られていないのが、ロッキー山脈の山懐に抱かれ、マイル・ハイ・シティ（標高1,600m）と言われるコロラド州デンバーの夏の桜である。6月には、何と街の中心「さくら・スクエア」で桜祭りが開かれ、その周辺には桜ムードが溢れるのである。

日本の桜だけにこだわらず、機会があればデンバーへも出かけ、ロッキー山麓で雪見酒を楽しみながら、初夏の桜情緒に浸るのもオツなものである。

（近藤）

## お得な情報

### 「日本で見つけた 世界おいしい物語」

#### ラシェール (フランス料理)

日本では非常に珍しい「仔バト」料理が売りで、一年中食べられるという。

シェフの大本章功氏が15年前にフランスで修業したウデをひっさげて2006年11月オープンした。

大本さんによると、フランス料理の基本とされるソースに力を入れているという。たとえば、仔バトにかけるソースを、日本の季節に合わせて濃淡をつけたり、微妙に味を工夫している。基本的には、少し酸味がきいた、口当たりの良いさっぱり味だ。

値段は、昼のコースが2800円から。

夜は、「仔バト春スタイル」単品で、5800円。コースとなると、9500円となる。

ソースに工夫した「春スタイル」とか「秋スタイル」とか、季節によって変化があるので、それこそ年中楽しめるという。

ハト料理と言えば、エジプトのカイロが有名だが日本でも食べられるのは、うれしい話ではある。

ほかに、前菜の「野菜マリネ」は、2800円だが、一度は試したい味となっている。

場所は、東京都港区白金 3 14 10

ランチは、12時から13時30分。

夜は、18時から20時30分ラストオーダー。

休みは、水曜日。電話は03-5789-4450

(大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

## JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいてきた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。

4月に完成した2008-2009年度版は、日本全国のホテル110館、55,000室の客室に常備されています。



日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。2008 - 2009年度版は150年間にわたり日本の国際交流の窓口であり続けた横浜の過去と現在を紹介する「横浜150年」といまでも日常の生活とともにある神仏の世界を通じて日本人のこころ

のあり方にせまる「素顔の神々」という2つの特集を軸に構成されています。また、巻頭インタビューは、文学者の河野多恵子氏をはじめとしたバラエティあふれるラインアップとなりました。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

### 道の駅「多古あじさい館」

桜は終わったが、あやめ、アイリスと花々の季節のバトンタッチが続き、そろそろあじさいの季節になった。千葉県北西部、香取郡の南端にある道の駅「多古あじさい館」は国道296号と栗山川の交差する「多古大橋」のたもとにあり、文字通りこれからあ



じさいが見事である。目の前を流れる栗山川の堤

防ぞいには1kmにわたり1万株のあじさいが植えられている。6月15日にはあじさい祭りがあり「多古米」を殿様に献上する「多古米行列」、満開のあじさいを観覧できる栗山川のサップ船遊覧など色々な催しが行われる。

「あじさい館」は、3基の白い風車と大きな水車がシンボルで、ふれあい市場では、多古米をはじめ、大和芋・サツマイモ・トウモロコシなど季節の農産物や果物をそれぞれの生産者の名前入りで販売している。売店お弁当コーナーでは多古米のおにぎり、お弁当を用意。遊歩道のベンチなどで食べることもできる。また、2階「展望ラウンジ」からは、四季折々の花と田園風景を見ることができ、多古米を使ったとろろ丼セットなど地元の食材を使った「おふくろの味」が楽しめる。営業時間は午前9時～午後6時(4月～8月は午後7時まで)駐車場・トイレは24時間利用可能。

地元の多古町では、農業体験ができる。5月には素足で田んぼに入り、「田植え体験」。6月～7月には「ジャガイモ掘り体験」。9月中旬～下旬には「稲刈り体験」ができる。

問い合わせは、

JA多古町営農経済部指導課：電話0479-76-2011。

### 【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、 団体会員(1口5万円)  
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

### 会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2008年7月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2008年7月25日。締め切りは7月15日。



NPOから提案します

エコツーリズムと中西悟堂

高崎経済大学観光政策学科教授 寺前 秀一

エコツーリズム推進法は観光の振興及び環境教育の推進を目的としている。同法によれば、エコツーリズムとは自然資源に知識を有するいわゆるナチュラルリストのガイドのもと、観光旅行者が、自然観光資源の保護に配慮しつつ自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動であるとされる。エコツーリズム推進法が、法律として制定されたのは、市町村長が指定する自然観光資源に関し行為規制を定めているからであるが、エコツーリズムの法的範疇化と行為規制は直接関連していないから、単純な環境保護のための行為規制法であってもおかしくはなかった。

食糧増産が国是であった昭和20年代、観光関係者は農地総合開発計画に否定的であった。総合開発のためのダムについても、いで湯等の景観が破壊されるとの認識が一般的であり、渓流の水量が確保されないのではないかと危惧をしていた。

昭和30年代に入り認識が激変した。1961年5月号の「野鳥」において中西悟堂は「観光ブームを告発する」を記述し、「小中高校から大学まで一貫した自然保護教育を施して国民をたたき直せ」と主張した。比叡山、六甲山、若草山、丹沢山、裏磐梯、霧降高原等が槍玉に上がっている。20年代とは異なり、都市住民のレクリエーション活動が活発化したからである。しかしながら自然破壊は、観光行動そのものよりも住宅政策に代表される土地利用政策の

貧困さにあったと考えるほうが適当であろう。

観光による地域振興が叫ばれ、世界遺産の指定活動や尾瀬国立公園の日光国立公園からの分離が実施されている。しかしながら中西悟堂がご存命であれば、おそらく今日のエコツーリズムや世界遺産誘致運動の欺瞞性を嘆かれたであろう。エコツーリズムの代表は、世界自然遺産第一号のガラパゴス島である。貧しい島民の生活と世界的自然遺産の保護を両立するため、入域税の徴収と行為規制をしっかりと実施しているが、それでも観光客の出す廃棄物が生態系に深刻な影響を及ぼしている。貧しくはない先進国日本の場合は、両立ではなく、まず観光行動の規制と自然環境の適正管理が求められるのである。その厳しさが評価されれば、自らより付加価値の高い観光資源へと発展するのである。

2020年、訪日外国人客2000万人に

日本経済新聞が最近報じたところによると、政府は2020年に日本を訪れる外国人客が2000万人を超えるという目標を打ち出す。

小泉前首相が「2010年1000万人突破」という目標を設定、これに従って政府はビジット・ジャパン・キャンペーンを進めているが、すでに07年には835万人となり、1000万人目標は射程内に入っている。

このため、さらに「10年倍増」を目指す。とくに中国、韓国始めアジア諸国からの大幅増を期待している。

なお、外国に向かう日本人は07年で1729万人。

江戸城再建へ国民運動を呼びかけ

特定非営利法人「江戸城再建を目指す会」(小竹直隆理事長)が、5月JN協会の団体会員として参加した。もともと、JN協会とは兄弟的な存在で、今回さらにむすびつきを強めたことになる。下記の文章は同法人が出している「江戸城かわら版」総会特集号から、許しを得て写した文章である。

今年は、草の根運動から国民運動への第一歩です。

全員参加で、夢を実現しましょう。

理事長 小竹直隆

NPOが継続的に発展出来るか否か、成否の鍵は、設立後3年が目安とされています。当会も、今年は正念場と言われる3年目を迎えました。そんな緊張感のある中で、第3回(平成20年度)通常総会がさる2月24日、江戸東京博物館で開催されました。まず再建運動を“草の根”から国民運動に発展させていく為には、何よりも基礎となる会員総数を3000乃至5,000名にする必要があるとの認識で一致し、その第一年度として今年は会員総数の目標を1500名として、全会員を挙げてその実現に取り組むことを決議しました。同時に、懸案の「築城構想プラン」については「寄付金500万円」のご支援を得て本年度中に具体化すべく、鋭意努力することになりました。



更に今年は、急成長してきた半面、ややもすると「動く人」と「観る人」に二分され勝ちな組織を活性化すること、更に、事務局体制の確立と財務基盤の強化が大きな課題になることを確認しました。そのような中で、新しい会員区分と年会費の一部見直しを提案させて頂き、お蔭様で、全会一致でご承認を頂きました。

お断り 「イタリア通信」は、今月号休載となります。次号以降にご期待ください。(編集長)

## 竜巻注意情報

## 気象とお天気の話

日本では大きな竜巻は発生しないと言われてきましたが、2006年の秋、それまでの“常識”が覆されました。宮崎県延岡市と北海道佐呂間町で、相次いで竜巻による甚大な災害が発生しました。地球温暖化や気候変動が原因と考えられ、これまで竜巻が発生したことがない所で油断はできません。

気象庁は今年の3月から「竜巻注意情報」という新しい気象情報を発表するようになりました。竜巻などの突風から身の安全を守ることが目的で、情報には竜巻だけでなく、ダウンバースト（ ）などの激しい突風現象も含まれています。



鹿児島県垂水市で発生  
(08年3月27日19時頃)

突風が吹く原因のほとんどは積乱雲（カミナリ雲）です。従来の気象レーダーや、最新鋭の「気象ドップラーレーダー」で積乱雲の動きを監視し、竜巻やダウンバーストなどが起きるおそれがあると判定された時に、竜巻注意情報が発表されます。

竜巻などの突風は台風などと比べると、被害範囲が狭い、短時間で終わる（ほとんどが10分～20分程度）、という特徴があります。竜巻注意情報は有効時間（発表されている時間）が1時間に限定されています（1時間以上危険が続く時は再度発表）。空模様が怪しいと感じたら、テレビやラジオの情報に注意して、危険から身を守るようにしましょう。竜巻注意情報は気象庁ホームページの「気象情報」で確認することができます。

ダウンバースト＝積乱雲から爆発的に吹き降ろし、地表に衝突して吹き出す破壊的な気流。

日本気象協会 林 英美

## 会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

名誉顧問	： 松山善三(映画監督)
理事長	： 松尾道彦(日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁)
顧問	： 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長	： 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、丸山博(元国土交通審議官)
支部長	： 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

## 【団体会員】(2008年05月31日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アンテス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)H K エアクシス、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ハレルシ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕入舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマソタハサシヤパソリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常興興産ビシ(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、ハーフキングプロ(株)、セントラルリングシステム(株)、(株)グアイエコンサルティング、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成ロテック(株)、大成ユレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、ティーンズレーティング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トヨカネソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)ニューテック、ネス日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、(株)フェイテリックホールディングス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

## 特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

**JAPAN NOW**  
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13  
小田急代々木ビル3F  
電話 03(5304)9500  
FAX 03(5304)5632  
E-mail info@japannow.org  
Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)  
編集長：加納 隆(JN協会理事)  
発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

## 編集後記

JN協会の第7回定時総会が終わり、国土交通審議官を退任した丸山博氏が、副理事長として参画してくれることになった。丸山氏は国際派で、年に100日くらい外国にいるという。JN協会の活動の幅が広がるのが期待できそう。

また、共同通信で編集畑が長かった長宗我部友親さんが、編集に参加してくれることも心強い。長宗我部さんは、親房系長宗我部の直系で、かつて土佐の国を治めたあの長宗我部元親と関係があるそうだ。従って城に造詣が深く「城下町と観光」という連載の執筆、市長や女将インタビューも担当してくれるという。

8年目に入ったJN協会だが、マンネリを防ぐためにも、新しい血が入ることは大変よい。「無報酬で、ごめんなさい」だが。(加納)